

ある。幸いにして、今回解放同盟からの指摘を受け、われわれは、今一度、そのような同朋会運動の原初の願いに立ち帰ることができたのである。そのような意味において、我々は今回の差別事件を、単なる不幸な出来事としてではなく、積極的にわれわれを慚愧せしめ、ふりかえらしめた貴重な教訓としてとらえるのでなければならぬ」と、教団の持つ差別体質に対し深い反省と、今後の基本姿勢を示した。

大谷派はこれまで、十数回の糾弾を受けてきた。それを機に、内部機構として1977(昭和52)年に拠って立つ同朋教団の確立を願った。しかし、同朋会運動の提唱者であり、難波別院輪番差別事件の糾弾にあたって部落解放同盟に対し責任者として回答書を提出した当時の宗務総長訓覇信雄師が、講演会において差別発言(全推協叢書『同朋社会の顕現』差別事件)を行った。しかも、その発言をその場にいた中で誰一人差別発言として受け止め得なかつた事実によつて、大谷派教団の「部落差別問題」に対する姿勢の脆弱さが露呈した。同時に「宗憲」改正までして取り組んできた「真宗同朋会運動」が形式的だけのものであり、



武内了温氏

年同和部を廃し同和推進本部を廃させ、本部長に参務を充て、精通する者を本部委員に配す等、体制の充実を図り、また、宗祖の教法

実態は何も改革されていなかったという、同朋会運動の内実そのものが問われることとなった。

(一)武内了温(1891-1968) 「同和」運動創始者、滋賀県庁社会改良主事であったが大谷派宗務役員として招聘され、後の「同和推進本部」の前身である社会課を創設し、教誨事業、児童教化、農村問題、社会福祉、ハンセン病患者の社会復帰の運動等、社会事業の活動を行い、特に部落差別の問題に最も力を注いだといわれる。1926(大正15)年に「殊に我が派の教義並びに歴史的関係を顧みる時、益々その責務の重大なるを知り、同時に如何なる困難を排しても、徹底運動の必要を認むべきなり」という設立趣意書をもつて真身会を設立し、精力的に講演会や論文などによって啓発し、被差別部落への訪問などを行った。それは、どこまでも浄土真宗の教法に立った「同和」運動を課題としての活動であった。

(二)『部落問題学習資料集』(大谷派における差別事件・差別事象をめぐって)参照

御遠忌テーマ「今、いのちがあなたを生きている」
教区御遠忌テーマ「あなたは、与えられたいのちとどう向き合う？」

教化本部通信 第61回

真宗門徒の生活 朝夕におつとめをしましょう・声にだしてお念仏を申しましょう
を回復しよう すずんでお寺の法座に身を運びましょう・報恩講を大切にお迎えしましょう

しんらんweb

検索

真宗同朋会運動50年に向けた運動の再検証。前号に引き続き、大谷派における差別事件・差別事象について、訓覇信雄元宗務総長の差別発言事件を中心に検証する。

また「点描」は、教団問題における北海道教区の動き。今号から3回に亘り、1979(昭和54)年の御正忌報恩講、いわゆる「分裂報恩講」を取り上げる。今回は分裂報恩講に至るまでの流れと背景について。

真宗同朋会運動50年に向けて

その検証 歩み(十一)

大谷派における差別事件 (5)

教化本部 古卿 誠幸

大谷派は、1967(昭和42)年の難波別院輪番差別事件を契機として、1969(昭和44)年8月部落解放同盟による第1回の糾弾会がもたれたが、それまでの教団の受け止めは「第1回回答書」にあらわれているように「教団の差別性を具体的現実にして明確にすることなく、同朋会運動の推進によって解決し得るという安易な展望に立ったものであった」。さらに、「武内了温のもとに集まったごく少数の人々が、大谷派同和会(後の真宗大谷派同和委員会)の名で、当時の訓覇信雄元宗務総長に提出した『建議』を考慮したものであったが、必ずしもその真意を汲んだものとは言えなかったのである。このような教団の姿勢が、糾弾会の席上において、部落解放

同盟からきびしい批判を受けたのである」というものであり、その中で提出された難波別院輪番の自己批判書が、武内了温氏が昭和3年頃雑誌に発表したものの丸写しであったり、教務部長(別院担当)が「部落問題に無知であった」という言い訳に終始したことから、このような姿勢を生み出す大谷派教団の体質が厳しく糾された。

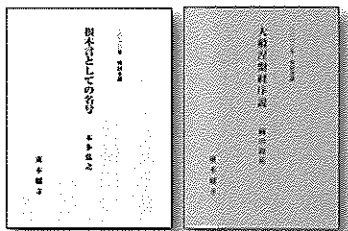
その後、第2回糾弾会を受け、「第2回回答書」が提出され、この内容に基づき、当時の訓覇信雄元宗務総長が『真宗』(1969年10月号)に「同和問題に取り組む教団の姿勢」を発表。その中には「あらためて差別問題の重要性を認識し、また従来本問題について全く不十分な取り組み方しかしていなかった事を深く反省せしめられたのである」。また、「われわれはすでに7年にわたって、同朋会運動を促進してきたのであるが、同朋会運動は、決してわれわれの教団を、衰微からまもるといっただけの護宗運動ではなく、実は、教団全体が宗祖聖人の本来的精神に立ち帰って、真に人類の要望に向って門戸を開く運動なので

名著復刊。

松野純孝 5,000円

1959年発行の『親鸞—その生涯と思想の展開過程』に「恵信—親鸞の回心—」「女犯偈」等を追加収録し、恵信尼の手紙から親鸞聖人の姿と念仏の教えを考察する。

お申し込みは教務所まで



2010年安居講本

本多弘之「根本言としての名号」
織田顕祐「大般涅槃經序説」

